

福岡都市圏南部環境事業組合建設検討委員会
第7回建設検討委員会 会議概要

1.開催日時	平成20年2月12日(水) 14:00~14:37
2.開催場所	春日市議会 全員協議会室
3.出席者	委員長(福岡市環境局長) 副委員長(春日市地域生活部長) 委員(福岡市環境局総務部長) 委員(福岡市環境局施設部長) 委員(福岡市環境局総務部計画課長) 委員(春日市地域生活部環境課長) 委員(大野城市環境生活部長) 委員(大野城市環境生活部リサイクル推進課長) 委員(太宰府市市民生活部長) 委員(太宰府市市民生活部環境課長) 委員(那珂川町住民生活部長) 委員(那珂川町住民生活部環境防災課長) 委員(福岡都市圏南部環境事業組合事務局長)
	建設専門部会長 副部会長
4.欠席者	なし
5.議題	(1)報告 報告 建設専門部会からの意見 (2)議事 議題 中間処理施設処理方式の検討について

(1) 報告

報告 建設専門部会からの意見

【松藤建設専門部会長から報告】

組合が定めた「基本コンセプト」や「基本構想」を基本に、評価に関する指針や評価方法、評価項目、評価基準を決定し、自治体、メーカーからの調査結果について専門的な立場から検討した結果、福岡都市圏南部における中間処理施設として、最低限満足しなければならない条件を満たした「ストーカ式焼却方式」、「ストーカ式焼却方式+灰溶融炉」、「シャフト式ガス化溶融方式」、「キルン式ガス化溶融方式」及び「流動床式ガス化溶融方式」に関し、評価の指針に基づく25項目について検討を行った結果、次のような結論に至った。

福岡都市圏南部環境事業組合では中間処理施設と最終処分場の建設事業が同時に進められており、残渣の確実な処分が確保できるという前提に立てば、技術的な安定性や信頼性及び経済性も含めて総合的に判断するとストーカ式焼却方式が望ましい。

ガス化溶融方式におけるその焼却システムは技術的に確立されており、スラグの有効活用が担保された場合、最終処分場の延命化を図るという点においては有効な処理方式といえる。しかしながら、スラグの有効活用については関係自治体の協力が重要であるが、他都市等の実績から見ても必ずしも十分な活用がなされているとはいえない。また、スラグは焼却灰に比べ容量が小さく最終処分量を軽減するという利点を持つ一方で、ごみ溶融時に使用する副資材の量が多いため、地球温暖化防止の観点からは不利となる。

ストーカ式焼却方式+灰溶融炉については、ストーカ方式を採用し運用していく中途において、スラグの有効利用が十分に行えることが確定した場合や最終処分場の延命の必要が生じた場合において、溶融炉のみの増設等を行うことが適切であると判断する。

(2) 議事

議題 中間処理施設処理方式の検討について

【協議内容】

検討の指針の「適正で安定的な処理・処分」や「信頼性と安全性の確保」の「安定的」、「信頼性」、「安全性」が何を意味しているのか、その解釈を整理しておくべきだという前回の委員会での議論を踏まえた事務局作成の資料で協議した。

「適正で安定的な処理・処分」については、「適正な処理処分を長期にわたり安定的に行うこと」と解釈する。これについて、部会では「可燃ごみの中間処理を長期にわたり安定的に行えるか、機器操作の容易性等から評価」し、委員会では「残渣物の資源化及び最終処分に関する安定性」を検討することとする。

「信頼性と安全性の確保」については、「(施設を)安全に管理することにより、近隣住民にとって安心できる施設である」と解釈する。これについて、部会では「故障が少ないことや国内の稼働実績の多寡により信頼性の高さを評価」及び「公害防止対策や事故

の危険性とその対策などの安全性について評価(高い安全性により近隣住民の信頼が得られる)」し、委員会では「国内の稼働状況及び事故等の確認」し、検討することとする。

「エネルギーの効率化を含む環境への配慮」については、「できる限りエネルギー効率の高い熱回収施設」及び「環境配慮型施設(デザイン・使用材料等)」と解釈する。これについて、部会では「ごみを持つエネルギーを効率良く回収し利用できるかについて評価」及び「ごみ以外の化石燃料使用により発生する温室効果ガスの多寡や水の使用量等、どれだけ環境に配慮できるかを評価」し、委員会では「エネルギーの効率化及び環境配慮への確認(CO₂排出量)」し、検討することとする。

「経済性」については、部会では中間処理施設の処理方式についてのみ評価しているため、委員会では最終処分場も含めた可燃ごみ処理施設の「ライフサイクルコスト」を検討することとする。